

## 平成30年度 第2回 新潟市白根地区公民館運営審議会 議事概要

---

日 時： 平成31年3月5日（火） 午後3時30分～4時42分

場 所： 新潟市白根学習館（白根地区公民館） ルーム1・2

出席者： 新潟市白根地区公民館運営審議会 高橋委員、本間委員、田中委員、吉田委員  
山崎委員、杉柳委員、富井委員、平原委員

事務局： 白根地区公民館長牛腸、味方地区公民館長渡辺、月潟地区公民館長川又、白根地区公民館古川、同館野崎、同館土田、同館高森、同館佐藤、同館関口、同館星野、同館渡辺、味方地区公民館笹川、月潟地区公民館鈴木

---

### 1 開会

白根地区公民館長あいさつ

白根地区公民館運営審議会議長あいさつ

### 2 議事

#### (1) 平成30年度公民館事業報告（中間）について（事業評価）

（事務局） 平成30年度公民館事業計画および実施状況（平成31年2月20日現在までの中間報告）をそれぞれ担当者から説明

（田中委員） 「コミュニティ・コーディネーター育成講座」について、高校生が放課後を使って、13回もの講座を取り組んだことは、すごく素晴らしいことだと思います。参加者1年生と2年生ということですが、とすれば来年度も何かしら学びの集団ということで、この子供たちはいろいろな視点で地域に貢献できる活動をするのではないかとものすごいという印象を持ちました。高校の校長先生も地域に根ざしたということ 키워ドに学校経営を考えていらっしゃる。白井中学校も、可能であれば、高校生の方々に中学生と一緒に地域を学習するうえで、いろいろな場面で力をお借りできる場面があったらいいと思って今、指導中です。

大通地区で活動が中心になったということで、出身中学校は白根北中学校でしょうか。

（事務局：高森） 生徒自身は、白根北中の出身とかは関係ありません。あくまでも地区に限定した生徒を選定したわけではありません。

（田中委員） そうすると、またいろいろな地域でも同じような活動が可能であるということですね。今、中学校でやっている総合学習における調べ活動、それからフィールドワーク、非常にいい方法。学校の外でもものすごく成果を出していると思いました。

（平原委員） 「白井の達人」について、白井にお住まいの方だと思いのですけれども、どのようにそういう人材を発掘されてほしい、また人材を生かすために講座を開くとあるのですけれども、どのような講座だったのでしょか。

(事務局：土田) 今年度は、8月6日の夏休み中と1月4日の冬休み中、これからですが3月21日の春分の日の祝日に3回開催する予定です。

夏休み中につきましては、臼井地区にお住まいの棚橋さんという女性の講師で、ちぎり絵を行いました。講師については、地域生活センターの職員からご紹介をいただきました。

1月の書き初め講座につきましては、武田書道教室の先生から、ここ2、3年冬休み中の恒例事業で続いています。冬休みの宿題として、特に小学生の子供たちに書初めの宿題が必ず出るので、家でやってもいいのですが、やはりいろいろな学年の子が集まって、実際の書道の先生から教えていただくことがよいとお願いをしました。

今月21日の春分の日に予定している3回目はペーパークラフト教室を計画しています。講師は臼井地区推進委員会の委員長豊木さんをお願いをする予定です。

(吉田委員) 「こどもチャレンジ」の③のネコの面作りについて、新聞の掲載の中で、昔、白根でネコの仮装をして踊ったという写真が出ていたかと思うのですが、これからそういったものを何かのきっかけで復活や、そういう祭りの中にそういうものを再現してみるとか、そういったアイデアはないのか。

(白根地区公民館長) 現在、白根商工会がこの白猫をモデルにしたイベントを考えているということです。先ほど報告のありました藤井先生が非常に協力的な方で、ぜひその方も一緒になって何かをやりたいということで今、進めているところです。公民館としましては藤井先生の強い希望で、このお面作りがまだ途中のお子さんもいらっしゃいますので、完成をぜひお願いしたいということで今年度中に、お面作りの続きをと考えています。

(吉田委員) 今いろいろな祭り等のイベントがあるが、関川の大したもん蛇まつり。津川の狐の嫁入りとも、そんなに歴史があるわけではないと、工夫していろいろ考えた人の講演を聞いたことがあります。何か白根にそういったものが。まだ、こんなものが昔あったそうだと。今また再現して、やることも一つのアイデアでおもしろいかと思います。

(高橋議長) 補足、昭和8年の写真で先ほどのネコの仮装をして踊っているものは、昭和6年に白根大火があったものの、わずか2年で復興を成し遂げ、復興祭として白根とネコと合わせたイベントをやった。それだけ白根の商店街は力があつたという表れなのです。それにちなんだイベントをやったらということで、区づくり予算の中でいろいろと提案がなされているようです。今後の推移を見守っていきたいと考えています。

## (2) その他

(白根地区公民館長) 「みなみ風」について、旧白根市当時「文芸しろね」として昭和56年に創刊されまして、文芸しろねは28号、みなみ風は10号まで発刊してきました。しかし、今回、予算の中で削られて、市の文芸誌を統合することとしています。市の文芸誌とは意義も内容も異なり投稿者全員の作品が全部載るということで、大きな違いがあります。大変残念ですけれ

ども、公費が見込まれないということで来年度以降、廃刊ということになりました。

(高橋議長) ひとこと何か職員に対する激励、あるいはお小言、何でもけっこうですのでお寄せいただければ幸いです。

(山崎委員) 白根絞りは、昨年 30 周年記念で、今までの飾り方ではだめだ、こういうことにしよう、ああいうことにしようとか何か月もいろいろ考え、飾り付けができました。すごく素晴らしいお言葉をたくさんいただきました。新聞を見て遠くから来てくださった方もいらっしゃったのです。もっとこれから頑張ろうというような、絞りのみんなでまた結束を固めました。

(高橋議長) 職員の方の協力があつたからこそできたということで、私も拝見したのですが、これまでなかったディスプレイ、素晴らしい飾りつけですごいのと思っていました。冒頭、私のほうでもお話ししましたように 20 周年を迎える、20 年たつとここまで力を発揮できるようになるのかと関心しました。

(吉田委員) 私は味方の国の文化財の笹川邸でボランティアガイドをやっております。現在、白根絞りの大きな作品を飾らせていただいております、お客さんのガイドをしていますと主に中年の女性の方の反応が大きいのです。私のにわか知識で日本の 3 大絞りの一つであると。それで、一時は白根のまらの予算を上回るくらいの売り上げが年間あつたとか、笹川邸の建物に合うということで大変、私どもは喜んで紹介させていただいております。

(山崎委員) ちなみに米という字も。

(吉田委員) あれは笹川邸でオリジナルの模様、卍崩し文様ということで江戸の榛原(はいばら)和紙問屋やっているとところで作ったと。今は榛原は日本橋にありますけれども、そういったことで説明させていただいております。

(富井委員) 文芸みなみ風について、2 年前くらいに味方小学校の女の子で作家になりたいという子がいたのです。その子の、短めの物語をみなみ風に載せてもらって、児童館にもその子が持ってきてうれしそうにして職員間みんなで読ませてもらって、そのとき学校の中でもちょっとわあとなったのですけれども、そういう子供たちが作家になりたいという夢とかの足がかりになるようなものだったかと。だれでも簡単に投稿ができて、子供も大人も老人の方もみんなのものを載せてもらえて、それで今、ばらばらと見ていたら、たまたまのうちの祖父の切り絵も載っていて、それこそ議長と同じページです。私の祖父ですが切り絵が載っていて、うちのじいちゃんも載っているなと思って、うちの祖父の切り絵も使っていただいて本当にありがとうございます。私も国語が好きだったのでけっこうこれを見させていただいて、とてもおもしろかったので、先ほどお聞きしてすごく残念な気持ちです。新潟市のものは審査があるとお聞きしたので、もう簡単には見てもらえなくなってしまうのだと思うと残念ですけれども、予算の問題もあると思うのでもしそういうところに予算がついたら、またこういうものの復活とかもしていただけたらきっといいと思いました。ありがとうご

ざいました。

(高橋議長) 貴重なご意見ありがとうございました。なくすということは忍びないのですけれども、かなりお金もかかる。それを文化協会の年会費、わずか1,000円しかもらっていないその会費だけで発行していくということはなかなか厳しいということで、涙ながらに今回、廃刊を決断せざるを得ない状況になりました。

(杉柳委員) 強いて言えば、公民館月報の中でいろいろな地域のことが書いてあるのですけれども、その中で新潟県少年自然の家リニューアルオープンとありましたけれども、こういうところに1泊でも参加できるような計画を持っていいのではないかと思うのです。予算は少しかかるかもしれないですけれども、利用する価値はあるかと思えます。

(高橋議長) 私はもう何回も若いときに行ったのですが、やはり日帰りの研修と違って、宿泊の研修はかなり効果があって感動も大きいものがあります。ですから、こちらのほうで主催をしていくという方法もありますし、向こうの主催事業はたくさんありますので、そこに参加するという呼びかけの仕方もあると思えますので、情報提供を今後も密にしていく必要があるかと思えます。

青少年研修センターもなくなってしまうかもしれませんが、少年自然の家のほうが今も一生懸命、地引き網も含めていろいろやっているようなのでおもしろいのではないかと。ちょうど今それをご覧になって感想をいただきました。ありがとうございました。

(本間委員) 感想ですけれども、それぞれの公民館の事業でこれだけのことをして、これだけの方たちを楽しませたり、学ばせたりという機会を作ってくださっているのだと改めて見せていただいています。一つやるにしても、人が集まるのかどうかということを考えなければいけませんし、予算もある中、日を決めて人を集めるという、一つ一つがとても大変だろうと感じます。

その中でも今回お聞きしていて、時代のニーズに合った事業を展開されていることが多々それぞれにあり、とてもいいと思います。二つ言います。

一つ目は、2ページの先ほど渡辺さんから紹介があった No.6 「庄瀬子ども広場」でランタンをお作りになったのですよね。ランタンを作るだけではなくて、そのランタンをお祭りに飾るということで、地域と子供をつなぐというお話をいただいていた。そういうことが一つの事業だけでなく、一つの事業とまた違う事業をつないでいながら発展していくことはとても素敵な事業だと思いますし、そういうことでまたよりその先の見通しや参加した子供にとってもとてもうれしいまたそのつながり、次があるという。とても素敵だと思いました。

一番最初に出たスマホを地域のシルバー世代に教えるという白根高校の取組みでしたけれども、やはりコミュニケーションを図ることは、話す

ことだけでなくそういう機器を使って、今はいろいろな形でコミュニケーションをとることができるのだということを通して、地域のために役に立つ若者を育てていくと。ボランティアをやってみようかという気持ちにまで高めることができるということは、これからの少子高齢化がさらに進んでいくこの時代のニーズに沿うものであり、希望になるのだろうと聞かせていただけて感動しました。何を言おうかと考えているうちに最後になってしまいました。

(高橋議長) ありがとうございます。今、職員の皆さん方も当然感じておられると思うのですが、事業は単発ではないと。事業をやったから終わりだということではなくて、その事業をやることによって次につなげていけないか。この事業とこの事業の中でこれをどう発展させることができるかと。いいご指導をいただいたと感じてお聞きいたしました。

まだ、しゃべりたい方がたくさんいらっしゃると思うのですが、一応、これで締めさせていただこうと思います。ありがとうございます。事務局にバトンを移したいと思います。

#### 5 その他（連絡事項）平成31年度からの味方地区公民館の管理方法について

(味方地区公民館長) 平成31年度からの味方地区公民館の管理方法について、資料4：これまでの味方地区公民館の管理については、開館している時間についてすべてにおいて管理人が常駐をしていたということでございますけれども、利用率も低いという状況の中で、平成31年度からは原則として利用がある時間帯について管理人を配置したいということでそういう方式に改めるについて説明

(司 会) 引き続き、公民館条例の施行規則の改善について、白根地区公民館長からお願いします。

(白根地区公民館長) ラスペックホールの受付開始日の変更について、白根地区公民館のラスペックホールの受付開始日については、新潟市公民館条例施行規則の中で、今現在は利用開始日の2か月前の日が属する月の初日から受け付けとなっております。2か月前の利用受付では催し物や事業などの周知など、準備期間が非常に短く不都合が生じているという状況です。公民館利用団体の利便性を図るため12か月前、から予約ができるように規則を改正したいということで、3月の定例教育委員会に提案し、平成31年度、この4月1日からそのように変更したいと考えております。

(司 会) 長時間のご審議、どうもありがとうございました。これをもちまして、本日の新潟市白根地区公民館運営審議会を終了します。本日は大変ありがとうございました。